

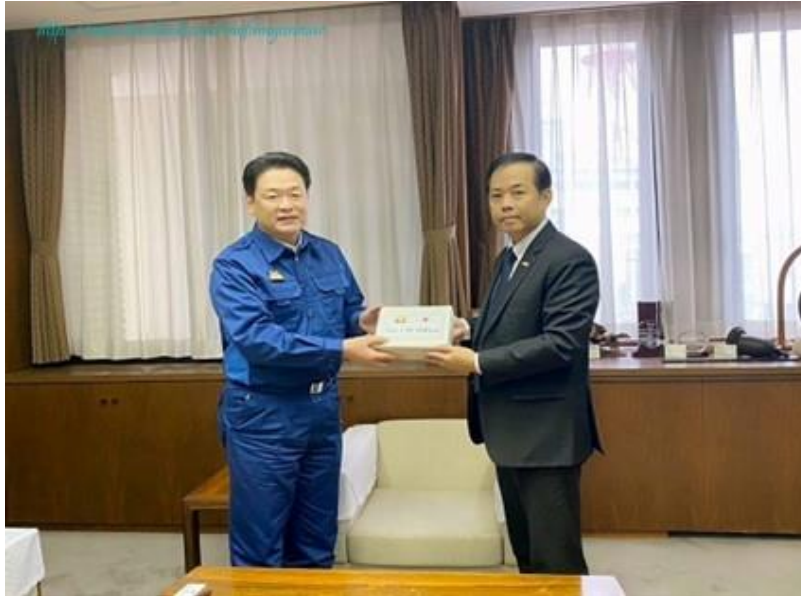
日本の石川県で発生した地震における駐日ミャンマー大使館の取り組み

2024年1月1日、日本の石川県は強い地震に見舞われ、津波警報も発令されました。駐日ミャンマー大使館は、その当日、日本に滞在しているミャンマーの方々に向けて自然災害に関する注意を呼びかけ、石川県および地震の影響を受けた地域に住むミャンマーの人々に地方自治体の適時の情報発表に特に注意し、支援が必要な場合は大使館のホットラインの電話番号に連絡するよう呼びかけました。



石川県と周辺地域の地震で232名が命を落とし、現地に住むミャンマーの人々を含む多くの地元の方々も甚大な被害を受けました。石川県に住むミャンマー人のために、地元の担当者や市民の皆様が、どのように行動すれば良いかをご教示くださったことに駐日ミャンマー大使館も大変に感謝しています。ソー・ハン駐日ミャンマー大使率いるグループは、2024年1月20日に石川県七尾市を訪問し、ミャンマー大使館の職員や名誉領事、日本滞在の国費留学生、日本ーミャンマー間

でビジネスを行っている企業などからの義援金、合計 198 万円を必要な場所で活用していただくよう茶谷義隆七尾市長に寄贈しました。



ミャンマー政府からも石川県の地震の復興支援として日本赤十字社に US ドル 10 万と同等の日本円 1494 万 2000 円を寄付し、その寄付金をソー・ハン大使より日本赤十字の清家篤社長に 2024 年 3 月 11 日に贈呈しました。

石川県志賀町の電気製品の工場で働いているミャンマー人女性 12 名ならびに七尾市の食品工場に従事しているミャンマー人女性 16 名合計 28 名と連絡が取れたため、ソー・ハン大使は 2024 年 1 月 27 日に志賀町と金沢市を訪れ、彼女らに 15 万円相当の医薬品や食料品を寄付しました。また彼女らが職場で直面している困難などについて関係機関と連絡を取り、日本の法律に基づいて彼女らが享受すべき事柄などについて調整を行いました。

このミャンマー人女性 28 名のうち、同職種の新しい職場への移動希望者 7 名が職場の移動をできるよう、大使館と関係機関とで連絡を取り、滞在ビザが同種類の 5 名を茨城の職場へ、さらに 2 名を千葉の職場に移動させることとしました。彼女らは 2024 年 3 月 18 日と 4 月 2 日にそれぞれ新しい職場へと移動し働き始めています。日本の現法律では技能実習生は 3 年間、転職が許可されませんが、地震の被

災地であるため日本政府より特別の許可が出たこと、大使館が旧雇用主と新雇用主との間で調整を行ったことで新しい職場に滞りなく移動できました。



ミャンマー大使館は日本に滞在しているミャンマーの人々の利益や領事に関することなどに法律や規制、習慣に則って取り組んでいます。石川県で起きた地震について、ミャンマー政府ならびに駐日ミャンマー大使館の取り組みや地震の被害に遭ったミャンマー人のために大使館が行った支援の状況などを写真とともにお伝えいたします。





日本を襲った地震に対してミャンマー政府より日本赤十字社に 10 万 US ドルを寄付

2024 年 1 月 1 日に日本の石川県を襲ったマグニチュード 7.6 の地震に対し、ミャンマー連邦共和国政府より日本赤十字社に 10 万 US ドルの寄付が行われました。

このことについての寄付金贈呈式が3月11日午前、東京の日本赤十字社で行われ、ミャンマー政府からの寄付金10万USドルと同等の日本円1494万2000円がソー・ハン駐日ミャンマー大使より日本赤十字社の清家篤社長に贈呈されました。



寄付金贈呈式ではソー・ハン大使が、ミャンマーと日本は長い友好の歴史を持つ盟友国であり、自然災害のような困難が生じた時にはお互いに助け合う歴史があること、今回、日本の石川県で 2024 年 1 月 1 日に発生した強い地震では、多くの被害が発生し、命を落とされた方も多数いること、この地震の復興事業に日本政府が尽力している中、ミャンマーからの寄付が役立つであろうと確信していると述べました。

日本赤十字社の清家篤社長からも、石川県を襲った地震に対するミャンマー政府からの寄付 10 万 US ドルに大変感謝していること、今回のように国が助けを必要としている時にお互いに助け合うことは、ミャンマー国民と日本国民の間の深い友情を示しているということ、ミャンマー政府からの今回の寄付は地震の被害を受けた人々のための復興事業において大いに役立つであろうと述べられました。

その後、寄付に対する感謝状が日本赤十字社の清家篤社長より贈られ、ソー・ハン大使が受け取りました。

ソー・ハン駐日ミャンマー大使 地震の被害を受けた日本の石川県在住のミャンマーの人々を訪問・激励し、飲料水や食糧、医薬品を寄付

ソー・ハン駐日ミャンマー大使は 2024 年 1 月 1 日にマグニチュード 7.6 の地震が発生した石川県に在住しているミャンマー人労働者を 2024 年 1 月 27 日に訪問して、人々を励まし、飲料水や食糧、医薬品などを寄付しました。

ソー・ハン大使は、石川県の志賀町を訪れ、電気製品の工場で働いているミャンマー人女性 12 名と面会しました。面会では、ソー・ハン大使より、大地震の強い揺れの中、ミャンマーの人々が命を落とすことなく、怪我などもなく無事であったことに安堵したこと、地震発生の中、ミャンマーの人々がお互いに話し合い、困難に対し一緒に立ち向かったことを讃えること、このような場合にどのように行動するかをご教示くださった日本の地元のみなさまに感謝申し上げること、ミャンマー大使館として、地震後にミャンマーの方々との連絡を取ることを試みたが

2024年1月24日に地元の団体の一つと連絡が取れたため、本日このように訪問することができたことなどを述べ、お米や油、食料品、飲料水、医薬品などを手渡しました。



ミャンマーの女性 12 名が働いている志賀町の電気製品の工場は地震の被害がそれほど大きくなかったため、引き続きその工場で働くことができるということです。上記女性らが居住している場所も被害がなかったため、引き続き同じ場所に住んでいるということです。ミャンマー大使館としても志賀町に住んでいるミャンマーの人々について継続的に連絡し、必要なことについても引き続き支援してまいります。

その後、ソー・ハン大使は石川県の金沢市を訪れ、七尾市の食品工場に従事しているミャンマー人女性 16 名と面会しました。面会では、ソー・ハン大使より、大地震の強い揺れの中、ミャンマーの人々が命を落とすことなく、怪我などもなく無事であったことに安堵したこと、ミャンマーの人々がお互いに話し合い、困難に対し一緒に立ち向かったことを讃えること、このような場合にどのように行動するかをご教示くださった日本の地元のみなさまに感謝申し上げること、ソー・ハン大使より 2024 年 1 月 20 日に七尾市を訪れ七尾市長と面会し、七尾市在住のミャンマーの人々を支援して下さったことに感謝の言葉を申し上げ、ミャンマー大使館ならびにミャンマーの方々などからの義援金 198 万円を寄付したこと、地震後にミャンマーの方々との連絡を取ることを試みたが 2024 年 1 月 24 日に地元の団体の一つと連絡が取れたため、本日このように訪問することができたことなどを述べ、お米や油、食料品、飲料水、医薬品などを手渡しました。

ミャンマーの女性 16 名が働いている七尾市の食品工場は地震の被害が甚大ではなかったようですが、七尾市の断水が解消していないため、工場の稼働を当面の間、停止しているとのこと。上記の女性らが居住している家屋の一部も被害を受けているため、16 名の方々は現在、金沢市に避難されています。ミャンマー大使館として、七尾市の食品工場に従事しているミャンマーの方々の暮らしが順調に行くように、また適切な賃金を得ることができるよう、労働条件が良好となるよう日本政府の関係省庁や団体と話し合いながら、必要なことを引き続き支援してまいります。

志賀町と金沢市に滞在しているミャンマーの方々からも、大使を含むミャンマー大使館の担当者の方々が今回のように自身が滞在している地域まで訪問し元気づけてくれたこと、また飲料水や食糧、医薬品などを届けてくださったことに心

より感謝していると述べられました。ソー・ハン大使からも、現在、冬の時期であり志賀町と金沢市でも雪が降っているので、健康に充分気を付けること、また飲料水や食糧、医薬品などを続けて送ることなどを述べました。

志賀町や金沢市以外にも、地震の被害を受けている石川県内に住むミャンマーの人々がいるかどうか、ミャンマー大使館としても引き続き調査し、被害を受けている方々への必要な支援を行ってまいります。情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ミャンマー大使館にご連絡いただきたく存じます。





日本の地震で被災された方々のために、駐日ミャンマー大使より七尾市長を訪問し義援金を贈呈

日本の石川県において 2024 年 1 月 1 日にマグニチュード 7.5 の地震が発生し、232 人以上の方々が命を落とされ、多くの住民の方々が深刻な被害を受けました。

この地域に住むミャンマーの人々も避難所に一時避難していました。

ソー・ハン駐日ミャンマー大使は、2024 年 1 月 20 日、地震の被害を受けた石川県の七尾市を訪れ、茶谷義隆 七尾市長と面会し義援金を手渡しました。面会でミャンマー大使より、ミャンマーにとって親しい友人である日本がこのような自然災害に見舞われたことは大変遺憾であること、地震の被害を受けた地域に住むミャンマーの人々を助けてくださったことに感謝申し上げること、ミャンマー大使館として今後も引き続き必要なことを協力していくことなどについて述べました。また茶谷義隆 七尾市長より、大使自ら地震が発生した地域まで訪れ義援金を届けくださり心より感謝申し上げると述べられました。

会談後、ソー・ハン大使はミャンマー大使館の職員とその家族や、日本に暮らすミャンマーの人々、日本に留学しているミャンマー政府職員、ミャンマーに投資している日本企業、各ミャンマー名誉領事、日本で事業を行っているミャンマー企業やその他善意ある方々からの寄付の合計 198 万円を茶谷義隆 七尾市長に手渡しました。

